

属名など	主な作業	病気と害虫
【コチョウラン】  Phalaenopsis	支柱立て:花茎がある程度伸びてきたら支柱を立て、花茎を上向きに支えておきます。支柱を立てずに開花させると、花の向きがばらばらになり、あまりきれいに咲きません。 花がら摘み、花茎切り:しおれてきた花は1輪ずつつまんで取ります。また、花茎についた蕾の半分くらいが咲き終わったら、花茎を切ります。株が大きく、しっかりとした葉がある場合は、下から2~3節を残して切ると、残った節からまた花芽が伸びてきます。葉の少ない株や葉が垂れて弱っている場合は、つけ根から花茎を切り、株を養生させます。	害虫:カイガラムシ、ナメクジ カイガラムシは一年中発生しますが、特に冬から春は室内に取り込み風通しが悪くなるため、発生しやすくなります。発見したら、柔らかい布でできるだけふき取り、その後、専用の殺虫剤を散布しておきます。 病気:新葉の腐り 高温時あるいは低温時に、葉の中心部に水がたまると、新葉が腐ることがよくあります。軟腐病の場合もありますが、原因はほかにもさまざまあります。水やりで株の中央部に水がたまったら、ティッシュペーパーなどで吸い取っておくようにします。
【デンドロビウム】  Dendrobium  <ノビル系>	花がら摘み:節々に咲く花は1輪ずつしぼんでくるので、しぼんできた花から順次指で摘み取る。半分以上の花が終わってきたら、節から伸びる短い花茎をハサミで切り取る。バルブを根元から切らないように注意しましょう。バルブを切ってしまうとその後生育しなくなってしまう。 支柱立て:秋、バルブがほぼ伸びたところに、支柱を立て株の姿を整えておきます。ただし、小型の品種はバルブがしっかりと立ち支柱が不要のものも多くなっています。	病気:葉に黒い斑点 夏にバルブが大きく育ち、みずみずしい葉がつくころから秋にかけ、葉に黒い斑点が出るがありますが、生育に大きな影響はありません。 害虫:ナメクジ 新芽や花芽はナメクジの食害を受けやすいため、春の新芽の時期と冬から春の花芽の時期は特に注意します。
<キングアナム系>	花がら摘み:花が半ばまで終わったらバルブと葉を残して花茎を根元から切ります。株は自然に形が整い、花茎もしっかりと自立するランですから、支柱立てなどの作業は必要ありません。	害虫:アブラムシ、カイガラムシ 病害虫は少ないランですが、花芽が伸びたときにアブラムシがよくつきます。また、株が込み合っているとバルブにカイガラムシがつくことがあります。
原種:ロディゲシイ  <デンファレ系> <フォーサモス系>	【あるHPでは】肥料は7月でやめて、寒さに35日はあてないと咲かないそうですよ。霜の降りる寸前の12月始めに部屋に取り込みます。	
【デンドロキラム】  Dendrochilum	支柱立て:11月~4月、花茎が伸びてきたら、支柱を立ててビニールタイで留めておきます。 花がら摘み:長く垂れる花穂が、そのまま落ちることなく、茶色に枯れていきます。枯れた花茎は、見つけしだい指で引き抜いておきましょう。	病気:炭そ病 風通しが悪く、湿った状態が必要以上に続くと、炭そ病に感染することがあります。しかし、炭そ病は感染してもすぐには発症せず、株が弱ったときに突然葉先が枯れ込み始めます。枯れ込んだ部位を切り取って、殺菌剤を散布しておきましょう。 害虫:カイガラムシ、アブラムシ、ナメクジ 高温で乾燥した気候のときに、風通しが悪いとカイガラムシが発生することがあり、液汁を吸汁するので、見つけしだい、古歯ブラシでこそげ落とすか、殺虫剤を散布しましょう。 春や秋、新芽や蕾にアブラムシが寄生することがあります。吸汁してウイルス病を伝染させるので、捕殺するか薬剤を散布します。梅雨どきなどに、新芽や若い葉、蕾をナメクジに食害されることがあります。ふだんは隠れていて見つけにくいので、誘引剤を仕掛けると効果的です。
【エピデンドラム】  Epidendrum	花がら摘み:たいへん長く咲く花ですが、1輪の花が長く咲くわけではなく、花芽の中央に次々と蕾をつくり開花を続けます。古い花が茶色く枯れ込んだら、ていねいに取り除いてきれいな花のボールを保つようにします。	害虫:アブラムシ 蕾や花にアブラムシがよくつきます。放置するとすぐ大量発生につながるので注意しましょう。
【ハウエアラ】 Howeara		
【マキシラリア】 Maxillaria		ほとんどありません。
【マスデバリア属】  Masdevallia	支柱立て:秋から早春にかけて、蕾ができる時期です。花茎が伸びてきたら支柱を添えてビニールタイで留め、安定させておきます。 花がら摘み:花は長もちしますが、しおれてきたら、花茎のつけ根から切り取ります。	病気:黒斑病、軟腐病 夏に蒸れた環境下で葉に黒い斑点が生じることがあります。生理障害による場合もありますが、比較的黒斑病もよく発生する病気です。風通しを改善し、高温にならない環境づくりに努めましょう。 夏の高温下で、蒸れて風通しが悪いと、葉が一斉に落ちることがあります。放置すると根元が腐り、悪臭がしたら軟腐病に侵された証拠です。風通しをよくし、予防のために薬剤散布をするとういでしょう。 害虫:アブラムシ、ナメクジ 風通しが悪い場所では、春や秋の成長期、新芽や蕾にアブラムシがつくことがあります。ウイルス病の原因になるので、見つけしだい、捕殺するか薬剤散布で退治します。湿度の高い梅雨どきや秋の長雨どき、新芽がナメクジに食害されることがあります。周囲に這い跡があるなら、鉢裏や物陰を探して捕殺しましょう。鉢を室内に取り込む際は、鉢裏や植え込み材料をよく調べて、ナメクジを取り込まないように注意することが大切です。
【オンシジューム】  Oncidium	支柱立て:11月ごろになると、バルブのつけ根や葉の間から花茎が伸びてきます。1~2輪が咲いたときを見計らって、鉢の中央付近に支柱を立てて、花茎の根元から10cmくらい上と先端から少し下の計2か所をビニールタイで留め、両者のちょうど中間の位置を、もう1か所留めます。	害虫:アブラムシ、コナカイガラムシ 年間を通して、風通しが悪かったり、管理が行き届かなかったりすると、アブラムシやコナカイガラムシがつくことがあります。コナカイガラムシは、バルブや葉が重なったところに潜んでいることが多いので、念入りにチェックしましょう。アブラムシは、新芽の裏側や花芽について液汁を吸い、ウイルス病を媒介します。見つけしだい手でつぶして、被害を食い止めましょう。